

# The Slanting World

小林 亮太 (指導教員 八尾 廣)

## はじめに

従来の商業施設はさまざまなものがあるが、どれもなにかを買うという目的がなければ商業施設にはいかない。そこで、目的がなく、散歩をしていたらいつのまにか中に入って楽しんでしまうような商業施設について考えた。

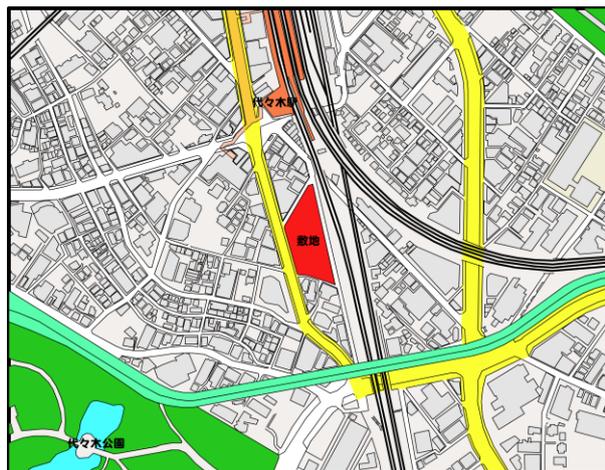
### ■ 1 計画内容

#### 1・1 計画地概要

計画地：東京都渋谷区代々木1丁目31-13

設計範囲：商業施設

敷地面積：3438,36 m<sup>2</sup>



#### 1・2 プログラム

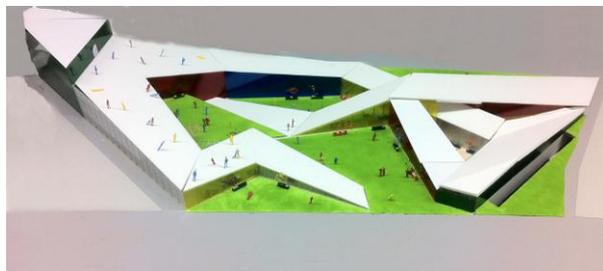
テーマ：散歩の延長線上の商業施設

まず、この商業施設を建てる最適な場所を考えたところ、散歩の延長線上の商業施設ということで、散歩をしている人が多い場所にしようと考えた。その結果1番先に頭に浮かんだ場所が代々木公園である。さらに代々木駅から代々木公園までの道なりの場所を敷地により、代々木駅から代々木公園に行く人々を引き込むことができ、また、代々木公園で散歩している人々を引き込める。さらに、代々木駅から渋谷駅までが近く、代々木にいるひとが徒歩で渋谷に行くときの道のりにもなっているのでそういった人々も引き込むことが出来ると考えて、この敷地に決定した。

代々木公園には、さまざまな人々が集まる。これらの人々すべてを引き込み、引き込んだ後も、歩き回って楽しいと思わせるような商業施設にするように、次の工夫をした。

#### - 視覚 -

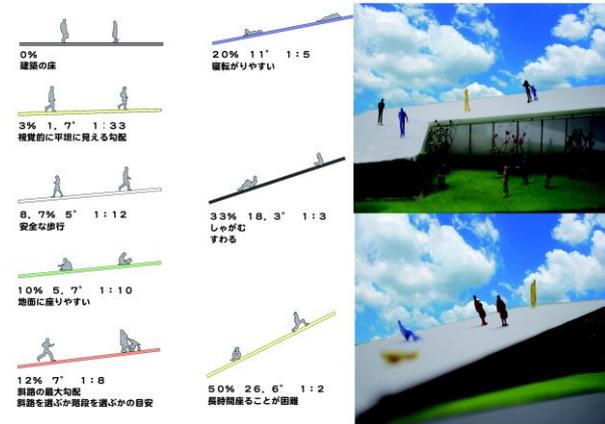
五感のうち人が最も影響をうけるのが視覚で、しかも素早く得ることができる。この視覚についてうまく考え、利用することによって空間を豊かに楽しくすることが出来ると考えた。視覚の双方向性は、光の反射率を変化させたり、不透明さの程度、角度で性質が変わる。まず、建物全体をさまざまな角度にすることにより、どこを歩いても光の反射率は違い視覚が刺激される。つぎに、各ショップの窓をさまざまな色に変えたり、不透明さを変えることにより、さらに視覚が刺激されて飽きることなく歩き回れる。



#### - 斜め/斜面/スロープ -

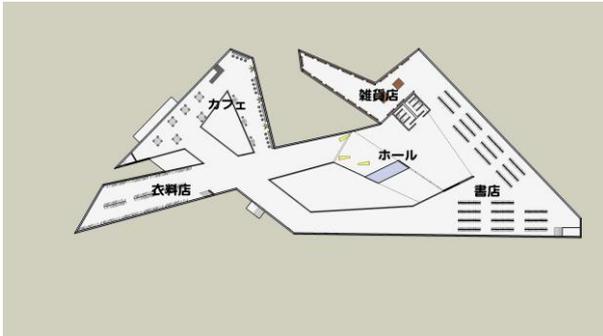
この商業施設は屋根がスロープになっており、のぼることができる。斜めや斜面、スロープには様々な魅力がある。世の中には、さまざまな上下移動の手段、階段、エレベーター、エスカレーターなどがあるが、斜め/斜面/スロープがもつ空間移動はそれらに比べ緩やかで、魅力的な空間移動が体験できる。さらに、スロープの角度を変化させてやることによりそれぞれの角度でまた違った空間移動や体験ができ、角度によって感じることも違ってくる。例えば、0°は建築の床、1、7°は視覚的に平坦に見える勾配、5°は安全な歩行、5、7°は地面に座りやすい、7°は斜路の最大勾配で斜路を選ぶか階段を選ぶかの目安、1

1° は寝転がるのに最適、18、3° はしゃがんだり座ったりするのに最適、とこのようにいろいろな感じ方があり、施設のスロープをさまざまな角度に変えた。



ー その先を見通すことができない道ー

そのさきを見通すことができない道は、意識が近い距離に向けられている。歩くにつれ先に新しい景色がどんどん開けていく。そして、このことは、先の空間に対する期待感を高める効果がある。なにかこの先におもしろいものがあるのではないかという雰囲気をかもし出す。もちろん、見通しがきかず、折れ曲がった道は分かりにくく、迷いやすい。しかし、折れ曲がった道の途中途中に新しい発見や楽しめるようなものがあれば迷っても楽しい。



地下1階平面図

### 1・3機能

代々木駅近くには書店、衣料品、日用雑貨などを扱うお店が近くにない渋谷までいかなければならないと、住民の方が不満に思っているのを、これらを機能として入れた。書店は、一般の本棚ではなく自分が設計した本棚をいれることにより道を曲がった先に新しい発見を用意している。この本棚は本がランダムに配置されていて、同じ景色ではなく歩くたびに違う景色が見える。ショップ同士の境界を壁の素材や傾斜窓の色で

ゾーニングすることで、歩いているうちに急に世界が変わるような感覚を覚えることができる。



カフェ



衣料店



雑貨店



書店